

早稲田大学政治経済学術院 教授

深川 由起子

ふかがわ・ゆきこ 早大政経卒、日本貿易振興機構などを経て、米エール大学院修了。03年東大大学院総合文化研究科教授、06年早大政経学術院教授。前日本学術会議会員。著書「韓国・先進国経済論」で大平正芳記念賞を受賞。64歳。



グローバルサウスとどう付き合うか 対等目線の経済協力で実利を

先般、広島で開かれた主要7カ国首脳会議(G7サミット)ではいわゆる「グローバルサウス」の協力が一つのテーマとなった。裏を返せば新興国や途上国との協力なしにG7が世界経済を仕切れる時代は終わったのであり、多様な彼らの世界観や行動原理を理解することが不可欠になった。



G7広島サミットではグローバルサウスとの協力が一つのテーマに(首脳会談、ブルームバーグ)

国連における途上国の協力グループ(G77)から中国を除いた国内総生産(GDP)の合計は2000年代に入ってから急増し、既に日本や欧州を凌駕。50年代には米国・中国を上回り、最大の勢力になるとみられる(三菱総合研究所)。新興国・途上国経済の成長はグローバル化の恩恵によるところが大きい。通信の革命などが国境を越えたビジネスのコストが大きく下がり、国際分業の単位が細分化されたことで、多様な途上国がこれに参加する機会が増えた。

また仮想通貨を含めた国際金融の変化は途上国の資金調達制約を緩和した。投資機会が多い途上国でインフレーションが進む一方、大規模で、さまざまなレガシーコスト(負の遺産)を抱えた成熟経済を突き動かすインフレーションは容易ではない。いざおおい世界経済は途上国の成長に期待をかけるを得なくなった。

グローバルサウスは極めて多岐にわたる。投資機会が多い途上国でインフレーションが進む一方、大規模で、さまざまなレガシーコスト(負の遺産)を抱えた成熟経済を突き動かすインフレーションは容易ではない。いざおおい世界経済は途上国の成長に期待をかけるを得なくなった。

講壇

さらにデジタル技術によるインフレーションは人口の若さとの親和性が大きく、それ故の市場潜在性が新たな交渉材料になってきた。他方、グローバル化の負の側面として新興国の国際収支危機は頻発し、その都度、新自由主義改革や民主化を求めてきた国際通貨基金(IMF)や米国の「内政干渉」、説教にアレルギーを持つ国も多い。かくて濃淡の違いはあるが、米国の相対的衰退は免れないが、中国にかつての米国の代わりは無い。

唯一の非欧米メンバーとして、日本がグローバルサウスと欧米との懸け橋の役割を果たせる、といった自負はこの世界観相場のなかでは独りよがり過ぎる。新興国・途上国にとっての日本は既に昔は勢いのあつた国であり、時には「米国の言いなり」の国であったりする。一方IMF予測の通りグローバルサウスの成長が一直線に続くようなら、成長が鈍化した中国に代わる成長エンジンとして、日本にはインドを急進させようとする彼らが必要になる。カードがなくなはない。1枚目は誠実さ、だ。東南アジア諸国連合(ASEAN)は経済パートナーとして圧倒的に中国重視だが「困った時の相談相手」は日本の信用がまだはるかに大きい。2枚目は根気だ。インドに「納期」という概念を理解させ、地下鉄の援助案件をはじめ、多くのグローバルサウスにとって日本人の忍耐力は新鮮でさえある。3枚目は対等目線である。地震などの災害が多く、不可抗力の事態が起れば、先進国の「上から目線」の余裕がないことを日本人は所与として、であればこそ、批判があつても日本の経済援助は欧米に比して圧倒的に卒業国を出してきた。卒業して怪物化した中国経済が最大の課題とはなつたのだが、(今回は日本国際問題研究所 客員研究員(現代中国研究家)の津上俊哉氏です)

動き出す事業

政府の科学技術政策と大学の経営改革を連動させた、文科省主導による大規模な事業が動いている。頂点は10兆円の大学ファンドで支援する国際卓越研究大学の新制度だ。これに次ぐ研究力重視の大学向けに「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」で、応募が開始され東京都大学も注目している。

理工系250校支援、好機に

東京都市大学学長 三木 千寿



主張

情報系の強化と、私立・公立の理工系学部・学科への再編がある。本学はこれらも重視している。私立・公立大の理工系

強化は250校支援でかなりの数だ。日本の大学は国立大86校、私立大620校、公立大101校(2022年度学校基本調査より)であるから、国内大学の3分の1に相当する。ただし既存組織での定員充足率が低過ぎる対象外だ。退場の事態にも全学合わせ実際の学生数が定員を下回る「定員割れ」は、全国の私立大の約4割で生じている。学生確保に大きな問題を抱える大学は、理工系への転身の後押しも得られないまま、退場を迫られる

先進性追求、大学は変革続けよ

みき・ちとし 72年(昭47) 東工大院理工学研究所修士修了、同年工学部助手。90年教授、05年副学長。12年東京都市大特任教授、13年副学長。15年学長。工学博士。徳島県出身、76歳。

自動車を超えてイベントに 自動車の枠を超えるイベントに

日本自動車工業会(自工会)は10月26日(11月5日)に東京・有明の東京ビッグサイトにて「JAPAN MOBILITY SHOW」を改称し、自動車以外の産業を交えたモビリティ・エンターテインメントの祭典とする計画だ。生まれ変わった新しい祭典とするため、三つのシンボルコンテンツを用意する。一つ目は、モビリティが変える未来の東京を、光や音と運動した映像で見せる体感型コンテンツ。陸や空を行き交う未来のモビリティや、災害に見舞われた町でモビリティが活躍する姿などを、没入感のある大型シアターで見せる。二つ目は、スタートアップの支援・育成に関するイベント。モビリティ産業の未来を担うスタートアップをステージに応じて支援するため、アリーステージ向けのピッチコンテストのほか、成長に向かうスタートアップを大企業とマッチングする場も設ける。ショーの開催期間に限らず、継続的に支援する枠組みも検討する。三つ目の新コンテンツは、著名なゲストを招いて連日開催するトークイベント。カーボンプリントラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)やモータースポーツのほか右脳的な柔軟なアイデアも選んで世界から注目されるイベントを自指し「モビリティのタボス会議」のようにしていきたい(自工会と意気込む)。

あさレポ Alcohol & Thermometer Report. 11万台突破! 2023年2月28日現在. 安心のアルコール検知器協議会認定機器 XENSE 82BT. 運転日報 オプション!! 鈴与シンワート株式会社

働く女子のNEWトレンドアイテム PCのかわいい新相棒!! おしゃれ×高機能なマウス. egret さあ、マウスだって可愛い時代に. ビジネスハーマニー株式会社 https://www.egret-jp.com